

能登半島地震 支援の実践報 告（その2）

地域の福祉ニーズにつ
いての一考察

東京社会福祉士会
災害福祉委員会
加藤明子・志賀生子

被災者見守り・相談支援等事業

1 事業の目的

被災者は災害救助法に基づく応急仮設住宅に入居するなど、被災前とは大きく異なった環境に置かれることとなる。このような被災者が、それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、**孤立防止等のための見守り支援や、日常生活上の相談を行ったうえで被災者を各専門相談機関へつなぐ等の支援を行う。**

(令和5年度時点で事業を実施している災害:平成30年7月豪雨、令和元年台風19号、令和2年7月豪雨、令和3年7月1日からの大雨、令和4年8月3日からの大雨、令和4年度台風第15号、令和5年奥能登地震、令和5年7月14日からの大雨災害)

2 事業の概要・スキーム



引用：厚生労働省
「第1回地域共生社会
の在り方検討会議」
(令和6年6月27日)
資料より

石川県における被災者見守り・相談支援等事業 実施体制



石川県地域支え合いセンター金沢 (被災者見守り・相談等支援事業)

石川県健康福祉部厚生政策課からの依頼(委託業務)

金沢市社会福祉協議会

3月8日から訪問開始

「みなし仮設」 2159世帯→9/3時点2353世帯

「公営住宅等」 164世帯→9/3時点217世帯

初回面談完了 1499世帯(64.5%)

初回面談未完了 733世帯(31.6%)

面談前に退去 91世帯(3.9%)

※7月からは2巡目の訪問も開始。

初回訪問では世帯状況のアセスメントが主。

2巡目は緊急度の高い方をスクリーニングし順に訪問している。

生活支援相談員(2名1組で訪問)

金沢市社協12名 **社会福祉士会112名**

石川県社会福祉士会

①県内広域で支援体制を構築(実際は、みなし仮設住宅の約6割を占める**金沢市へ派遣**)※内灘町は2日間のべ4名派遣

②生活支援相談員活動者の確保

③訪問用車両(**軽自動車5台リース**)配置

④生活支援相談員の**宿泊拠点確保・整備**(中期的には被災者の居場所づくりを想定)

⑤**生活支援相談員のコーディネート**(募集・日程調整・決定通知・派遣先社協との連絡窓口)

⑥生活支援相談員緊急時の対応(公共交通の遅延、感染症など突発的な対応など)

全国から社会福祉士が応援に動く過程

センター設置

- **3/8 石川県地域支え合いセンター金沢設置** 755世帯へ訪問開始 日本社会福祉士会災害対応ガイドラインに基づき東海北陸ブロックの会員が協力 軽自動車と宿泊先整備

東京へ

- **4/16 関東甲信越・東海北陸・近畿ブロック社会福祉士会に募集通知**
→東京社会福祉士会は全会員へメール、**希望者は各自申し込み**

全国へ

- **6月 日本社会福祉士会ホームページ**に「令和6年能登半島地震における被災者支援活動への協力について」として呼びかけ掲載

「石川県地域支え合いセンター金沢」 訪問活動の目的と内容

目的：**孤立・関連死防止**

被災者一人ひとりが必要な支援を受けられる体制構築

内容：①**金沢市内**のみなし仮設住宅・公営住宅に住む被災者を訪問

②今後の支援の必要性を判断し被災者データベースに登録

③見守り支援や日常生活上の相談を行ったうえで被災者を
各専門相談機関へ**つなぐ**等支援する

→活動者は、①および③の相談とセンター職員への報告を担う。

活動者について

●活動条件

- ・日帰り可能エリア→1日単位可
- ・宿泊エリア→最低3日以上

●宿泊先

金沢市内徒歩圏内で無償提供あり（希望者のみ）

●その他

- ・社会福祉士で活動内容に対応できれば、分野などの制約無し。
- ・運転免許無しでも参加可能。

活動者に対する事前資料

- ☐ 石川県地域支え合いセンター金沢訪問活動のしおり(7月よりver.2)
 - ☐ 地域支え合いセンター「生活支援相談員」訪問活動のポイント（7月より）
 - ☐ 「支援者のための」知っておきたい能登方言
 - ☐ みなし仮設QA
 - ☐ みなし仮設住宅制度チラシ
 - ☐ 社協の保険(加入口数5口)※社協で加入
 - ☐ 相談記録_金沢市社協記入例
 - ☐ 報告様式2_日報
 - ☐ 訪問シート様式金沢市社協
- ・「生活支援相談員基礎研修」の研修動画(YouTube 限定公開)URLと資料提供あり
 - 初回時提出物
 - ☐ A-1委嘱状・承諾書
 - ☐ A-2誓約書
 - ☐ A-3振込先確認票

活動者1日のながれ

9時00分 金沢市松ヶ枝福祉館集合・ミーティング(1日の流れ・注意事項)・マッチング(訪問先調整)

9時15分 午前の部 出発

12時00分 休憩(活動場所へ戻るかどうかはペアの方と相談)

13時00分 午後の部 出発

16時00分 帰着・記録・報告書等作成、申し送り

17時00分 終業 * 訪問件数は場所、面談時間により差が出る

活動のながれ

- ・ 2人一組 ペアは毎回変わる 事務局がコーディネート
- ・ 訪問先リストを当日渡される
- ・ 軽自動車移動 行き先をGoogleマップに入力しルートを決め出発！
- ・ 昼食休憩はルート上で適宜 1時間保障
- ・ 訪問先 基本は事前アポなし（案内チラシは配布済）
- ・ 不在時は不在票を残す→連絡があった場合、指定時刻訪問 電話訪問したことも
- ・ 「うるうるパック」(支援物資おすそ分け)をお渡しする。

内容は日による(食品：缶詰・レトルト・飴など、日用品：ラップ、タオルなど)

訪問時の持ち物

1. 訪問シート(住所・氏名等差し込み印刷済み)、相談記録票
2. 支援物資（うるうるパック）
3. ご不在連絡票
4. 不在整理票、不在状況確認票
5. 各種支援制度等のチラシ・パンフ(クリアファイル。全世帯共通)
6. 災害ボラセンチラシ(※対象者のみ: 輪島市・能登町・珠洲市・
穴水町・七尾市・志賀町)
7. 各種支援制度ファイル

各種支援制度等のチラシ・パンフ 内容

1地域支え合いセンター金沢 チラシ

2あつまらんけ~のと チラシ

3きくみみ石川(生活支援窓口案内ガイドブック)

4生活家電の購入に対する支援について チラシ

5緊急小口資金(特例貸付) チラシ

6生活必需品の給与 チラシ

7生活必需品の給与申請書

8すこやか長寿(高齢者世帯向け)

9被災された方へ(石川こころのケアセンター)/お子さんのことでご相談・・・

10被災地における飲酒について(石川こころのケアセンター)

11いしかわこころのわ(県こころの健康センター)

12高齢者のための熱中症対策



きくみみ石川
ガイドブック
(内容は随時更新)

**※罹災証明書(災害対策基本法)
により受けられる支援が
異なる**

対象が「半壊以上」など限定
されるものもあるため
情報提供には注意が必要

アセスメントシート

(初回記入、空白は
その後の訪問で
補う)

・このほかに
ケースごとに
「相談記録票」
を作成。

・不在の場合は、
「不在整理票」
「不在状況確認
票」
(洗濯物や郵便
物等の状況に
チェック) を
作成

・終了後、まと
めの報告として
「日報」を作成

記入日時		年 月 日 午前/午後 時	
石川県地域支え合いセンター訪問シート			
訪問・記録者	方法		☐ 訪問 ☐ TEL ☐ その他
被災前住所	〒 ()		
現住所	☐ 建設型仮設 ☐ みなし仮設 ☐ 公営住宅 ☐ その他 〒 住所:		
住民票の住所			
世帯主	フリガナ	セイ	メイ
	氏名	姓	名
世帯員	フリガナ	セイ	メイ
	氏名	姓	名
	フリガナ	セイ	メイ
	氏名	姓	名
	フリガナ	セイ	メイ
	氏名	姓	名
	フリガナ	セイ	メイ
	氏名	姓	名
いずれかを記入	電話番号	☐ 携帯電話 () ☐ 本人以外の連絡先の場合チェック (□家族 □知人 □その他) ☐ 固定電話 ()	
	メールアドレス	なし	☐ 連絡手段なし

1. 世帯のアセスメント			
要配慮事項 (任意)	☐ 高齢のみ世帯 ☐ 高齢単身世帯 ☐ ひきこもり ☐ 病気・怪我 ☐ 妊産婦 ☐ 乳幼児 ☐ 障害者(身体) ☐ 障害者(知的) ☐ 障害者(精神) ☐ 要介護 ☐ 医療機器 ☐ ペット ☐ 外国人 ☐ その他 ()		
罹災証明	☐ 取得済み ☐ 申請中・申請予定 ☐ 申請しない		
住家の被害状況	☐ 全壊 ☐ 大規模半壊 ☐ 中規模半壊 ☐ 半壊 ☐ 準半壊 ☐ 一部損壊 ☐ なし ☐ 不明		
世帯の収入	☐ 就労・自営業等により収入あり ☐ 年金で生活 ☐ 預貯金で生活 ☐ 求職中 ☐ 生活保護等の支援を受けている ☐ その他 ()		
住宅再建の方針	☐ 自力再建の予定 ☐ 自力再建したいが時間がかかる ☐ 自力再建が難しい ☐ 公的支援を希望する ☐ 住宅再建について考えられない、考えたくない、見通しなし		
特記事項			

2. 個人のアセスメントの調査

フリガナ	セイ	メイ	性別	☐ 男 ☐ 女 ☐ その他
氏名	姓	名	職業 (任意)	
医療的サポートの 利用の有無	☐ 有 (□定期的投薬が必要) ☐ 無			
要介護(支援) 認定の有無	☐ 有 (□要支援1 □要支援2 □要介護1 □要介護2 □要介護3 □要介護4 □要介護5 □介護区分不明) (利用している居宅介護支援事業所名:)			
障害等手帳の有無	☐ 有 (□身体障がい者手帳 □精神障害者保健福祉手帳 □療育手帳) ☐ 無			
介護・福祉サービ スの利用の有無	☐ 有 (利用している事業所名:) ☐ 無			
聞き取り項目	1	体調に不安がある	☐ はい ☐ いいえ	
	2	金銭面に関して困っている	☐ はい ☐ いいえ	
	3	災害で大切な人を亡くし悲しみや喪失感がある	☐ はい ☐ いいえ	
	4	近くにすぐ連絡の取れる家族や親せきがない	☐ はい ☐ いいえ	
	5	近隣住民やコミュニティとのかわりがない	☐ はい ☐ いいえ	
	6	移動の手段等で困っている	☐ はい ☐ いいえ	
	7	市町からのお知らせが届いているか	☐ はい ☐ いいえ	
目視等での チェック	1	部屋の片づけに不安がある	☐ はい ☐ いいえ	
	2	清潔感や身だしなみに不安がある	☐ はい ☐ いいえ	
	3	異臭がある	☐ はい ☐ いいえ	
	4	アルコールに関して不安がある	☐ はい ☐ いいえ	
	5	顔色があまりよくない	☐ はい ☐ いいえ	
	6	話す様子から不安がある	☐ はい ☐ いいえ	
	7	支援制度の活用不満や拒否感がある	☐ はい ☐ いいえ	
	8	家族と円滑に関わっていない、関係が良好ではない	☐ はい ☐ いいえ	
	9	情報の理解や、社会的な手続きが難しい	☐ はい ☐ いいえ	
	10	訪問拒否あり	☐ はい ☐ いいえ	
次回訪問	次回の訪問日 (特に必要な場合に記入)		月 日	判定区分
特記事項				

ご提供いただいた個人情報、令和6年能登半島地震に関して適切な支援*1、情報提供*2、対応の検証を行う目的で、被災市町、広域避難者の受入市町村、都道府県、学術研究機関、民間の支援団体等に必要範囲で共有することに同意します。

*1 石川県地域防災計画における被災者への支援(義援金配分・安否確認・情報分析等)、*2 各種支援制度の周知 等

個人情報の共有に関する同意 : 確認済 ☐

よりよい支援のための5つのポイント

(石川県地域支え合いセンター発行「金沢地域支え合いセンター生活支援相談員訪問活動のポイント」より)

1 支援の基本は、寄り添う姿勢と広い視野

- 生活の主人公は被災者であることを忘れない
- 被災者自身が、自分の経験を語ることで、暮らしや抱えている困りごとを把握する
- うなずきや相づちを打つなど、相手の話を誠心誠意聴く姿勢で向いあう

2 支援者は、被災者と対等な関係で、でしゃばらず、歩調を合わせる

- 暴言や拒否、ひきこもりなど、なぜその人がその状況になっているのか、現象の裏側にある思いや気持ちを理解する努力を続ける
- 自分の手法や価値観を押しつけず、被災者本人の歩みを大切にする
- 被災者が決められないときは、待つことも大事

3 支援者は、できないことを探すより、できる力を発見する

- 被災者のこれまで生きてきた力を理解し支援に活かそう
- できないことをできるようにするのは難しいが、できることを伸ばし増やそう
- 被災者の視野を広げる支援が生きがいにもつながる

4 支援者は、地域が資源の宝庫ととらえ、地域を知り、地域とつながる

- 地域の人とのつながり（信頼関係）を基にした誠実な活動を心がける
- つくり出した資源を被災者に紹介するときは押しつけにならないようていねいに
- 地域の人とのつながりから、住み続けたい地域づくりの活動が始まる

5 支援者は、相互の違いを理解し、折り合いをつけられるよう支援する

- 被災者の状況は、時間の経過で変化することを忘れず、必要な時に必要な支援を心がける
- 近隣のトラブルは、新しい環境に慣れる過程で起きること、結びつきが強くなるきっかけととらえる
- 上手に折り合いがつけられるよう、人と人の距離や歩幅を調整する支援を

訪問先について（あくまで一人の体験）

【6月次 4日間】

- ・ 初回訪問 公営住宅(県営・公務員宿舎) / アパート
- ・ 訪問先 市郊外(バス便少ないが車ない方も) 高齢者中心
- ・ 主に聞いた内容から

社会資源情報は概ね出身自治体や家族から得られていた
「団地内でつながりがいい」「関わりは家族だけ」
「金沢住民との交流は望まないが、地元の人には会いたい」
「金沢市内に親族がいる」「能登を行き来している」

「エアコンがない」→7/8に家電助成制度拡充により
エアコン設置10万円限度でOKに。

訪問先について

【7月次 3日間】

- ・ 2回目訪問 1軒借家 ほかアパート
- ・ 訪問先 市街地部、駅から徒歩圏内など ほぼ高齢者
利便性高いが居住スペースは狭い

- ・ 全体を通じて気になったこと

新たな暮らしになじんでいる人とそうでない人

高齢でも能登との往復している人多し バスなど利用

同居、別居問わず「家族には遠慮がある」と語る高齢者多し

賃貸アパートはもともとエアコン設置されており問題なし

訪問先について

【9～10月次 3日間】 ※訪問頻度分類あり（1月・3月・6月）

- ・ 3回目以降訪問 1軒借家 ほかにアパート
- ・ 訪問先 水害に遭った珠洲、輪島出身の方に集中的に訪問
市郊外 子育て世帯、高齢者世帯

- ・ 全体を通じての話の傾向

「公費解体が終わり戻らないことを決意」した人と
「戻るつもりで解体や仮設入居まち」の人に分かれた

水害の直接的影響を受けた方も。「戻るつもりだったのに」
「安全な場において戻れない、その辛さは誰にも言えない」
「地元は大変なのに、金沢は何も問題ない 申し訳ない」

ネームプレート



持ち出せた自慢のパッチワーク



能登の資料展示(職員増員に伴い9月以降はここは事務スペースに)



軽乗用車で2人ペア訪問



金沢市社協拠点
松ヶ枝福祉館



着用するビブス





7月～宿泊施設 メゾンカサイチ



6月宿泊先 モナミ(エアコン無し)



宿泊施設内（狭い方の女性部屋 実質1人泊）



担当・地区・訪問数を記すボードの前で(7月)
この日は山形・東京・静岡・香川から参加



宿泊施設内（キッチン・ダイニング）語らいの場

ふえみカフェ

～能登半島地震被災女性のこころのケア～

📅 日程 6月14日(金)・29日(土)
7月12日(金)・27日(土)
8月9日(金)・24日(土)

🕒 時間 10時～13時

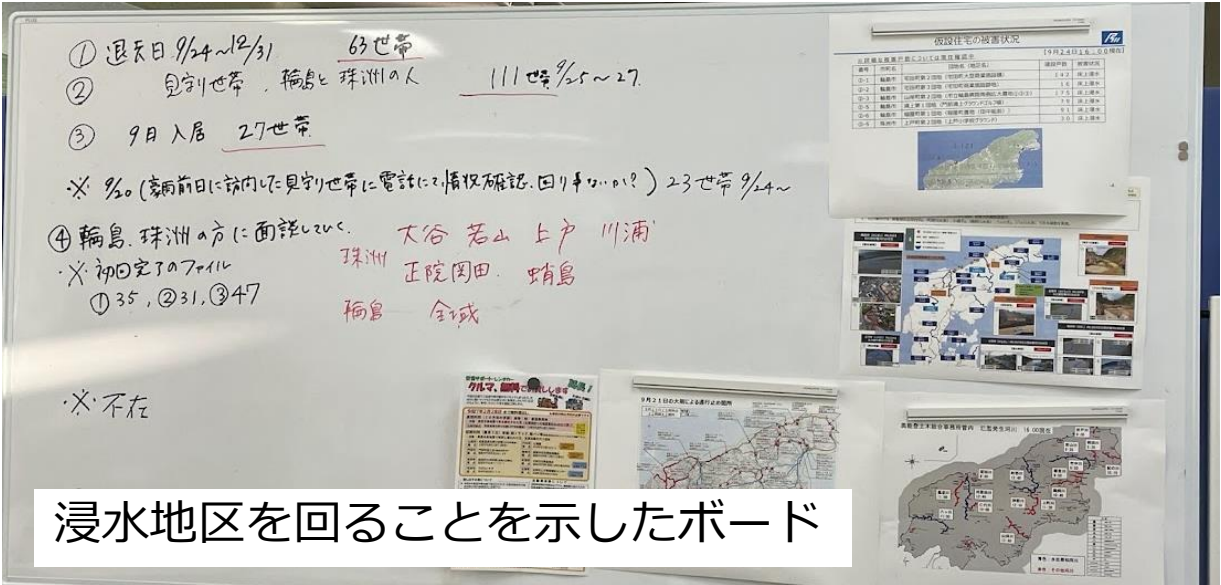
📍 場所 金沢福祉用具情報プラザ
福祉喫茶 つづみ

みんなつらい思いをして頑張ってるのに、我慢しな
私かわがままなの？・・・自分を責めていませんか？
心に詰まった“ザワザワした想い”を言葉にし
て、心休めます。

「あつまらんけ～のと」（12月まで期間延長）が
開催されている 金沢福祉用具情報プラザ内福祉
喫茶 支援物資の配布や情報発信も行なわれる

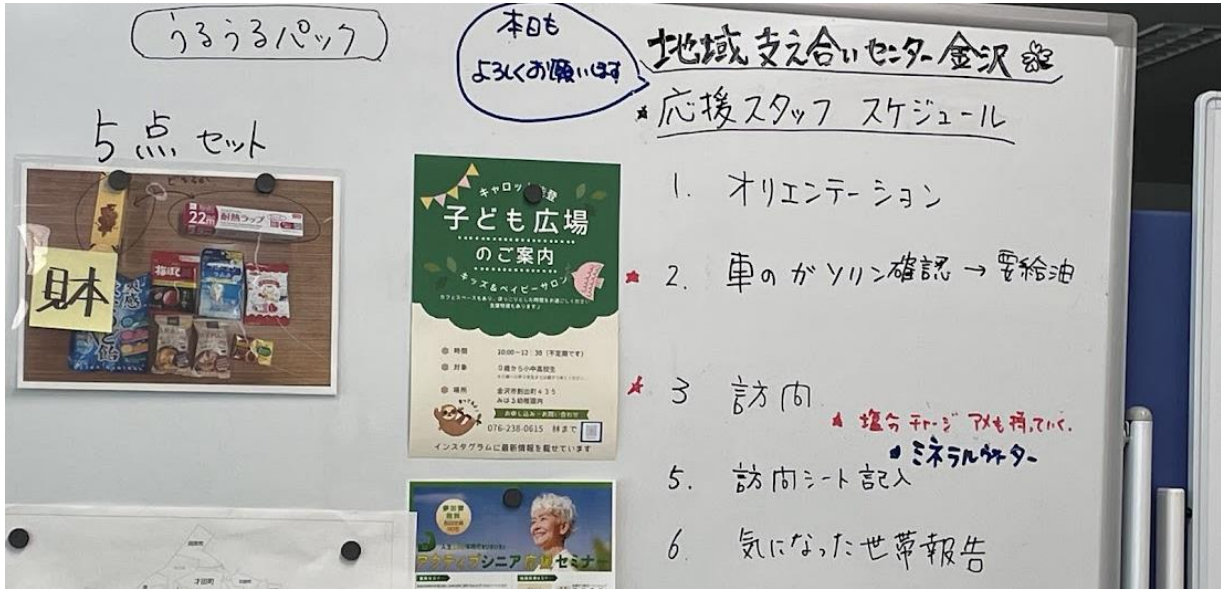


9/21の豪雨災害で二重被災になってしまった地区 (輪島・珠洲) の出身者を、その後集中的に回った



※詳細な被害戸数については現任推計中				
番号	市町名	団地名 (地区名)	建設戸数	被害状況
②-1	輪島市	宅田町第2団地 (宅田町大型商業施設横)	142	床上浸水
②-2	輪島市	宅田町第3団地 (宅田町商業施設跡地)	16	床上浸水
②-3	輪島市	山岸町第2団地 (市立輪島病院南側広大農地①②③)	175	床上浸水
②-5	輪島市	浦上第1団地 (門前浦上グラウンドゴルフ場)	79	床上浸水
②-6	輪島市	稲屋町第1団地 (稲屋町農地 (田中組前))	91	床上浸水
③-5	珠洲市	上戸町第2団地 (上戸小学校グラウンド)	30	床上浸水

輪島の仮設住宅は浸水被害が大きかった



応援スタッフのスケジュールや新たな場の情報提供

気になったエピソード(6・7月)

●被災者中での同士の分断

- ・「同じ出身でも向こうは全壊、こっちは一部損壊だからね」
一部損壊でも浸水するなどして居住困難。しかし義援金はない。お金をもらえない話をしても理解されず、同じ地元同士なのに気まずくなってしまった。

●納得いかない！(怒りをぶつける)

- ・「全焼したのに火災保険が役に立たなかった」
※地震にともなう火災は地震保険でしか保障されない)
- ・「役所に行っても情報フィードバック得られず話し甲斐がない」
「県も国もあまりにも対応が遅い。まだ公費解体できない」
「判定（罹災証明）に納得いかない。3回目申請中。戦い続けるよ！」

●金沢と能登と 暮らしへの思い

- ・「（能登に）残っている人に気兼ねがある。自分だけ楽してる」
- ・「金沢は便利で住みよい」でも「時々能登の空気を吸いにいく」
「海と山を見ているとホッとする」でも「**怖くてもう住めない**」

気になったエピソード(6・7月)

●人とのかわり

- ・「金沢の子どもや孫と行き来できて嬉しい。**孫の世話ができる。**」
- ・「1.5次避難所に障害者団体の関係者が訪ねてきて手続きをサポートしてくれた。もともと繋がっていてよかった。（視覚障害当事者）」
- ・「避難所を転々。ここは静か。**やっとホッとできた。**（発達障がいの子をもつ親）」
- ・「いいケアマネさんに出会えた」その逆も…
「新しいデイになじめず行かなくなり、介護が辛いケアマネに話せない」→包括へ
- ・「子どもが**金沢の学校になじめない**…」

●地元能登の人との出会いの場 金沢の人との出会いの場

「あつまらんけ〜のと」（社協がつくった居場所・金沢駅近く）

「銭湯」「パチンコ店」「居酒屋」「スーパー」…

偶然出会った昔の知り合いに、今の町内のバーベキューに誘われた90代

気になったエピソード（6・7月/10月）

●外部からの応援者に対して

- ・「子どもにも親戚にも誰にも言えず辛かった。聴いてくれてありがとう」（長時間傾聴後、笑顔で見送ってくれた）
- ・「地元(能登)にいろんな県から来てくれて頼もしかった。だんだん県外ナンバー少なくなっていて寂しくなった。」
- ・「遠くから来てくれて、きのどくな（ありがとう、申し訳ない）」
- ・「いつまでも甘えてちゃいかん」
- ・ 唯一持ってこられたものを自慢 座布団カバー・パッチワーク・アルバム…

●こんなはずでは…

- ・「田んぼも畑もない。一日箱の中にいてテレビ見てるだけ」
- ・ 6月訪問で、週末ごと息子と能登の畑に行っていると話してくれた高齢女性。10月訪問では義娘に「畑が水害で流されてしまい、話もしなくなり、寝たまま過ごすようになってしまった」とお聞きした。
- ・「老後の計画が全部狂ったよ…」

気になったエピソード（10月）

●水害の被害状況

- ・再建途中の家の後ろに土砂が来て、濁って重くなりどかせない。**地震より水害がひどい。**
- ・以前から水が上がる地域だったが、今回はあまりの豪雨で水路が変わり、水が来なかった。道路が割れてそこに廃材が入ってしまった。
- ・解体後に土砂が来て、近隣に迷惑がかからなくてよかったが、ひどい様だった。
- ・**道が土砂でふさがれて、車では壊れた家まで行くこともできなくなった。もどれない。**
- ・納屋が残ったからいずれは納屋を改築して住みたいが、冬になったら寒いから、アパートに残ることにする。冬を考えなくてはいけなくなった。持病があるからここに残った方がよいが、帰りたい思いと日によって考えが変わる。

●見えてきた変化

- ・3回目の訪問が同じ人へ訪問になった。8月訪問から2か月経過、8月は涙ながらに話されていたが、すっかり金沢の暮らしに慣れ「生活が落ち着き、夫や成人した子供も仕事に就くことができた」との報告。
- ・三回訪問会えなかった方、留守かと思ったが車を片付けている方がいたため目が合い声をかけるとご本人。「金沢市内に村の人が住んでいる。市内はサークルに地域外の人を入れてもらえなかったが、他の地区でサロンや体操に参加させてもらえるため、みんなを迎えに自分で車を運転し、つれていく。」

●行政の支援に該当せず 怒りの矛先を訪問者に向ける

- ・「もう来んでいい。あんたら来ても何も支援してもらえん。」・解体がちっともすすまん、なんもしてもらえん。

●子どもの問題

- ・「こっちに住んでから、中学生の子供が不登校になってしまっている。」
- ・前回「不登校になっているどうしよう」。今回「もう輪島にはもどらない」と、腹をくくった娘さん、自分で応援団に立候補し学校にだんだん行くようになった。
- ・不登校になってしまったが、学校の先生と連絡が取れるようになって、親もほっとしてきた。

金沢市における広域避難者の支援状況と課題(センターまとめ)

●ニーズや課題が不明確

先の見通しの立たなさ等から、漠然とした不安を抱える方

「能登に残っている人の方が大変」と困りごとや不安を表に出さない方

●環境の変化による不調、ストレス

家だけでなく、学校・勤務先等も変わり生活が一変

今後の再建方針の相違等により、家族関係にストレスが生じる方

土地勘がない、顔見知りがない

「孤独感」「買い物等生活のしづらさ」「情報が入らない」

世帯構成の変化、元々の生活課題の深刻化

金沢市における包括的相談支援体制の構築が必要

応援スタッフとして相談支援を行ない見えたこと

●「被災者」と一括りにしない 個別性を大事に、役割は「聴いて・つなぐ」こと

- ・「戻りたい」人は地域に関わらない傾向。意向の尊重と孤立リスクの見極め。
- ・自らの力で回復に向かおうとする人には、エンパワメントを。傾聴の力。
- ・自立する意欲を阻害しない程度に見守りを続けていく。必要な頻度の見極め。
- ・リスクの高いケースは、具体的に報告して至急の対応をセンターに求める。
- ・水害による二次被害等、メンタル面への影響が大きい。専門的ケアの必要性。

●新たなつながりの機会創出 畑作り、新たな場づくりなど社協が模索中…

●応援スタッフは一部のかかわり。主体は地元。応援者としての限界をわきまえる。

●能登に居る人たちへのケアは他団体が担う…社士会として外部からの応援の限界。

被災地支援活動における社会福祉士の強み

強み

相談支援の専門職
としての傾聴力・
面談スキル

同資格者として
役割認識の共有が
スムーズ

弱点

分野が多岐に渡り
(高齢・障害・児
童など) 人により
得意領域が異なる

多職種・多団体連
携や地域との連携
機会をもつ実践者
が限定的

➡ 強みを生かした息の長い支援…全国組織を生かし
災害時に助け合う関係づくりを

活動に協力した社会福祉士として

～今後行なっていくべきこと

東京社会福祉士会員としての

アクション

- 災害福祉について会員への意識啓発
- 他県会員との実践共有、連携
- 他団体との連携・他団体から学ぶ

地域・多職種との

アクション

- 分野を超えた課題共有の機会づくり
- 専門職と地域住民がともに学び訓練する

自組織・同職種・領域内での

アクション

- 実効性のあるBCP作成と訓練
- 職種間での研修・情報共有・連携

まとめ

災害後の個別ソーシャルワークのニーズに合わせた相談支援を

これまで支援対象でなかった人も、対象になりうる。

社会福祉士としてのアセスメントスキル・相談援助スキルをフル活用！

応援スタッフとしてできることの役割と限界を意識する

- 継続支援するのはあくまで地元スタッフ。側面支援としてできることを。

関心を持ち続けて息の長い協力を 明日は我が身の助け合い

- 被災地の変化する状況に関心をもち、継続的に関わり続けること。個別支援が地域づくりに展開することを意識すること。どこで災害がおきても助け合える組織作りを。